

昭和五十一年十二月二十二日第三種郵便物認可(毎月十八回、二・三・四・五・六・七の付く日発行)
 令和元年十月五日発行 通巻第七〇八九号
 センター第二十六号

発行所 神奈川県障害者団体定期刊行物協会
 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町一七五二横浜ラポール 3F

KSK 川崎市障害者社会参加 推進センター通信

編集人 川崎市障害者社会参加推進センター
 所長 中込 義昌
 編集責任者 広報・啓発委員会
 委員長 伊藤 實
 〒210-0834 川崎区大島 1-8-6
 川崎市南部身体障害者福祉会館内
 電話 044-246-6941
 F A X 044-246-6943
 E mail zksk@nifty.com
 http://kawashinkyo.org

平成 31 年度川崎市身体障害者福祉大会 開催



令和元年 7 月 7 日(日)多摩市民館の大会議室にて「平成 31 年度川崎市身体障害者福祉大会」が開催されました。大会スローガン「みんなの違いを知って、心のバリアフリーを始めよう」を掲げ、川崎市内の身体障害者及び関係者が一堂に会し、小雨がぱらつく中でしたが 100 名超の方にご参加いただきました。今年は麻生区・多摩区が当番にあたりました。

第一部 式典

大漣純子大会実行委員長の開会のことばより始まり、中込義昌大会会長による主催の挨拶と続けました。

藤倉茂起川崎市副市長、山崎直史川崎市議会議員長、佐藤忠次社会福祉法人川崎市社会福祉協議会会長に挨拶を頂戴した後、ご来賓の方々の紹介と続き、麻生区の金子広明議長による進行のもと、川崎市身体障害者協会横島

正志事務局長による経過報告、障害種別構成団体等の代表者による要望事項の提起及び質疑応答が行われ、議決されました。

要 望 事 項	
視覚	行政からの文書の表記の徹底
聴覚	川崎市立川崎病院に手話通訳を専門とした常勤職員の複数名配置
肢体	障害者スポーツの推進に特化できる、スポーツセンターの実現
脊損	公共性のある施設等における UD 自販機の充実
オストミー	ストーマ装具が災害時に、即、使用出来るように自宅近くの避難所に個人用の装具を保管できる場所の確保
難聴	人工内耳「体外機」買い替えの助成
腎臓	障害児者・透析者を含む移動困難者に対する通院・送迎の支援
川身協	「心のバリアフリー」普及に向けた具体的な取り組み

第二部 講演

「地域に生きれば地域が変わる」をテーマに NPO 法人自立生活センター・東大和理事長の海老原宏美氏を講師にお迎えし、脊髄性筋萎縮症 2 型を抱え、地域で生活・活動されている中で感じることなどについて、ご講演をいただきました。

身体障害者福祉大会 当番を終えて

当日は肌寒く、途中から雨というあいにくのお天気でしたが、心配された参加者の数はお陰様で用意した 150 席がほぼ満員となりました。

今回の福祉大会は麻生・多摩地区が担当で、小委員会は 3 月より大漣実行委員長おおすぎの元スタートし、役員の方皆さん忙しい中、多摩川の里（身体障害者福祉会館）へ夜に集まり、どのような運営とするのか、毎回熱心に意見が交わされました。式典の話に始まり、アトラクション、役割分担等と話は順調に進んでいきました。

第一部の式典の要望事項については、質疑応答では毎回要望事項と関連しない質問が出るのですが時間の限りもあり、今回は議長裁量で要望事項に関しての質問のみ受けることとしました。

第二部のアトラクションについては、映画上映等も検討しましたが、宮前区出身で進行性の難病を抱えながら、現在は東大和で相談支援専門員として働く海老原宏美えびはらひろみさんに講演をお願いすることになりました。海老原さんは仕事をしながら、障害者の権利や考えを全国に広める活動をしており、今年 1 月には東京都の女性活動推進大賞を受賞されたそうです。

その他、広報、送迎バス、お弁当の手配等々、細部に渡り話し合い、最終的な役割分担等を確認し、最後に各団体できるだけたくさんの参加者を動員しましょう。と、委員長の言葉で長きに渡る小委員会を終了しました。

さて、いよいよ大会当日を迎え、第一部の式典では、来賓・議員の方は例年なら帰られるところ今回は何人かの方が残ってください、要望を直に聞いていただき大変良かったと思います。要望事項、質疑応答とつつがなく終える事が出来ました。



（海老原さんの講演の様子）

第二部の海老原さんの講演は、まさに自ら地域に根付いた活動をされている方だからこそできる話だと思いました。小柄な体からは溢れるばかりのパワーを感じました。

今まさに多様化の時代と言われ、様々な人が社会の中で生活をしているわけですが、バリアフリーとはそういった多様な人たちが、社会に参加する上で障壁（バリア）をなくすることだと思います。障害の有無に関わらず、どんな立場でも安心して自由に生活するために、建物や交通機関などのバリアフリーはもちろんの事、一人ひとりが多様な人たちのことを理解し、思いやる「心のバリアフリー」を広げていくことが最も大切なことだと思います。そのためにも、この貴重な福祉大会を自分たち障害者が行政に要望するだけのものでなく、一般の方にもこういう所が大変なんだ、困っていると言う事を理解し、知っていただく事こそが、「心のバリアフリー」を広めることに繋がるのではないのでしょうか。一般の方は、障害者である（多様な人）と言う事を理解する気持ちはあっても、一人ひとり何に困っているかと言う事まではなかなか分からないと思います。

今後、福祉大会が一般の方も多様な人たちも共にお互いを理解し合える場の一つとなるよう、誰もが参加し易い、より一層素晴らしい大会になる事を願っています。

有難うございました。又、皆様お疲れ様でした。
わたなべ いくこ
（渡辺 幾子）

第 60 回政令指定都市身体障害者福祉団体連絡協議会 第 50 回政令指定都市身体障害者親善スポーツ大会



第 60 回政令指定都市身体障害者福祉団体連絡協議会及び第 50 回政令指定都市身体障害者親善スポーツ大会が 9 月 7 日（土）と 8 日（日）の二日にかけて、今年は札幌市にて開催されました。連絡協議会は、政令市の身体障害者福祉団体の代表が一堂に会し、身体障害者の福祉を増進するため、大都市における共通の問題を討議し、その結果を国等へ働きかけるための議論や、各都市における現状についての情報交換などがなされました。採決された事項は日身連で取りまとめられ、国に提出されます。会議では全体会議の他にも、より専門的な議論を行うために 6 つの障害別に分かれての分科会なども同時に行われました。

今回は（公社）札幌市身体障害者福祉協会が主管となり、ANA クラウンプラザホテル札幌を会場に開催されました。川崎市からは身体障害者協会中込^{なかごめ}理事長他 6 名が参加し、提案された事項についての審議や提案事項の説明、情報交換をしていただきました。川崎市の提案した事項は次の通りで、採択されました。

- ・テレビの国会中継は「予算委員会」にも字幕付与を …難聴者部会
- ・盲導犬の医療費の助成について（情報交換） …視覚障害者部会
- ・医療通訳の配置について（情報交換） …ろう者部会

親善スポーツ大会も協議会とあわせ開催され、今回はスガイディノス札幌白石を会場にボウリング競技が行われました。5 名 1 チームとなり（各都市最大 2 チームまで）、1 人 6 ゲーム×5 人の計 30 ゲームの合計点数を競います。川崎市からは 1 チームが参加し、精一杯頑張っていたいただきました。大会成績は次の通りです。

チーム成績

優勝：札幌市 A（5,027 点）

13 位：川崎市 A（4,024 点） 20 チーム中

個人成績

優秀選手：山元久子^{やまもとひさこ}（川崎市）他 11 名

ハイゲーム：女子 2 位 山元久子 209 点

ハイゲームスコア：男子 255 点・女子 256 点

協議会及びスポーツ大会の参加者の大半は 8 日スポーツ競技終了後に飛行機にて帰路につく予定であったため、各地に大きな被害を及ぼした台風 15 号の影響により、搭乗予定の飛行機が欠航し、二日延泊となった方もいらっしゃいました。その二日間もずっと新千歳空港で航空会社との折衝に費やし大変疲れたと聞き及んでいます、皆さん大変お疲れ様でした。

政令ボウリング競技に参加して

令和元年 9 月 8 日、札幌市のディノスボウル札幌白石で開催された「親善ボウリング大会」に参加して来ました。前回（横浜市での開催）から代表監督を任され、雪辱を期して臨みました。

結果は後程触れるとして、今回の札幌市に限らず、前夜に行われる懇親会は開催都市の特色が出て、開催都市のスタッフの皆様の苦勞が目に見えるような気がします。本当に有難うございました。

(4)

さて、ボウリング競技の方はと言いますと、川崎市は 5 人 1 チームのみの参加でしたが、参加 20 チーム中 13 位。殆ど、“定位置”（前回は 2 チーム参加し、12 位と 18 位）でしたが、山元久子選手は第 5 ゲーム目に 209 ピンを打ち、トータルでもチーム内唯一 1,000 ピン越えを果たし優秀選手賞を受賞しました。団体優勝は開催都市の札幌が、連覇中の神戸市を抑え優勝を勝ち取りました。

（川崎市チーム監督 ^{ふかさわ かずお} 深沢 一男）



障がいのある方々の作業所などで 作られた製品の販売会を通して/雑感

私はこの 3 月まで、川崎市の職員としていくつかの、いわゆる“直接処遇職場”と言われるところで、知的障がいのある“こども・その家族”や“本人”たちと関わる仕事をさせていただけていました。

こどもやその家族とのかかわりの中では、これから“こども”が生きていくであろう“社会”の中でどうすれば、よりよく生きていけるのか。また、高等部を卒業した彼ら、彼女らがこれから社会人として、どのような道を歩んでいけばよいのか、その時々状況の中でいろいろなことを考えさせられました。その中でいつも思っていたのは、こどもたちが“生きていく社会”にしる、高等部を卒業した方々が“社会人として生きていく社会”にしる、彼らが無理をして“社会”に合わせる形ではなく、“背伸びをしないで”生きていたら、ということでした。ただ、私などが思うよりはるかに難しい現実がそこにはあることも理解はしているつもりでした。

そして、この 6 月から勤めることになった職場で、いくつかの“販売会”を経験させていただき、今までとは違う切り口から、彼らの社会参加について考えさせられることになりました。

『産 SUN フェスティバル』として開催される販売会では、出店を希望する各施設が、申し込み時に様々なアピールをすることで、販売する場を確保するだけでなく、如何に“売るか”ということを考え、自分たちの商品を買ってもらう事について創意工夫し、積極的なアプローチを通して販売を行う場にしており、社会に合わせる、という視点とは違った、社会のルールに則って“商い”を営む姿が見られました。

あらためて、人は、いろいろな場でいろいろな人に出会うことで今までとは違う何かを感じ、吸収していくことができるのだと思わせてくれました。そしてこれは、きっと障がいがある方たちにも同じことが言えるのだと気づかされました。もちろん人それぞれに、まわりとのかかわり方は違うと思いますし、～でなければ、ということでもないと思います。ただ私たちは、社会（人と人とのかかわり）の中で生きているということを考えるなら、今対面しているその人とのやり取りであったり、関係性をどのように築いていくかが、より大切なのでは、とあらためて気づかされた、自分にとっての“場”となりました。

（社会福祉法人ともかわさき事務局分室

^{ふじまき ひとし}
藤巻 仁）

初めてのバスハイク & 実行委員体験記 ～小江戸・川越の旅

令和初めての川崎市精神保健福祉家族会連合会あやめ会バスハイクを翌週に控えた 10 月 12 日、関東・東北地方を未曾有の豪雨が襲い、甚大な被害が発生しました。あやめ会入会后初めてのバスハイク参加にもかかわらずこれまた初の実行委員というなんとも頼りない私はテレビや新聞の被害報道に「川越」という地名が出ていてびっくり仰天、ソワソワした挙句、川越市観光協会に電話をしたところ、「川越の市街地は大丈夫です。むしろぜひ観光に来てください！」と明るい女性の声に一安心。とはいえ、当日のバス運行に支障がないか、前日まで心配が絶えませんでした。（この稿を書いている 10 月末でも未だ被害が続いております。被災地域の日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。）

16 日当日は、やや曇天ながらも空は明るく、バスに乗り込んだ皆さんの顔も段々と晴れやかに。道路も順調で、運転手さんも「こんなにスムーズに川越に着いたのは初めてかも知れません！OK 牧場！」と笑顔でした。

いざ川越市内へ、さすがはベテランの添乗員さん、目に映る風景と共に川越の歴史と史跡を柔らかな声で案内していただきます。『なぜ川越がサツマイモで有名なのかと言いますと、江戸時代に江戸との新河岸川での船便が発達し、江戸のおやつ^{いざわ}の供給元として一大産地になったのですね～』とチョコちゃんばりの



逸話が素晴らしかったです。何より驚いたのは、往復 4 時間余りの案内を、一切資料を見ずにお話されました。「すごいね!!」と同行した夫に何度も言うと、そのたび「プロだから当たり前」とつれない返事…。

狭いバス通りの両側が、明治時代から続く蔵造りの重厚な町並みとなっており、降車前から皆口々に「素晴らしいね～」「あれがウダツだよ」「ウダツが上がらない、の語源だね…」と盛り上がりました。

到着後「川越まつり会館」で集合写真の撮影と見学、館内の説明員さんも熱意を込めてお話していただきました。その後、明治十一年創業の老舗割烹「幸すし」で昼食へ。道案内が遅れたり配膳の数が違ったりドタバタしてしまい、皆さんにご心配をお掛けしました、実行委員としては反省しきりです。お味とボリュームは天ぷら定食の圧勝との皆さんの感想でした。

その後は自由行動、蔵造りの町並み・時の鐘・菓子屋横丁と風情のある建物や、まんじゅうやお焼きを堪能しつつ、日常を離れ江戸～明治に思いを馳せながらのんびりと散策しました。平日でしたが着物を着た外国の方をはじめ観光客も多く、改めて小江戸川越の観光地としての盛り上がりを実感しました。少し歩き疲れたところでちょうど集合時間になり、帰路もバスは順調に進み、川崎で無事解散となりました。

初めてのバスハイク、参加者としては大いに楽しみましたが、実行委員としては反省しつつも非常に勉強になりました。ご参加の 72 名の皆さん、一緒に委員を務めた実行委員のみなさん、本当に有難うございました。

（泰山木の会 伊澤 麻理）

※泰山木の会は、川崎市精神保健福祉家族会連合会あやめ会所属の多摩・麻生区家族会

「ミニショップ アイメイト」 視覚障がい者が作るアクリルたわし



令和元年 11 月 10 日(日)川崎市麻生区で行われた麻生区社会福祉協議会主催の「あさお福祉まつり」が開催されました。当日は、多少冷たい風がありましたが上天気恵まれ、麻生区役所前の広場には、障害者施設が製作した小物・クッキー・野菜などその他福祉活動に携わる 40 を数えるブースが揃いました。

私共、「ミニショップ・アイメイト」も 3 坪のテントを構え、出店しました。出店内容は、市内在住の視覚障害者 6 名による手作り品、例えばメインのアクリル毛糸を使ったアクリルたわし（エコたわし）やこれから冬に向かっての手袋やマフラーなど、また弱視のメンバーがミシンを使ってのエプロンや大小の巾着袋。そして最近は、点字の市政だよりや点字図書館から発行される刊行物の読み終えたあとの再利用として、大小の「ポチ袋」を製作しています。長机 2 つの上には、これらの商品がいっぱい並びました。

私共の小さな「ミニショップ・アイメイト」にも多くの方に立ち寄って頂きました。中には、リピーターの方も多くいてとても嬉しく



思いました。

この日も全盲のメンバー（編み子と呼んでいる）が、お互いに会話を交し合ったり、お客様に編み方の説明をしながらも、かぎ編みの手はスムーズに動かし、（葉っぱの形やイチゴの形）などがみるみる出来上がってゆく光景をみて、皆様が一樣に感心されていました。

この会の結成は、もう 10 年程前の事でしょうか。編み物が大好きという視覚障害者が自然発生的に集まり、「この特技をいかして、何か出来ないかしら。」家にこもりがちな仲間が、そこに行けば誰かに会える場所が欲しいと夢がふくらみました。

日中の活動の場を作りたいという思いで、行政にも働きかけてみましたが、私の力不足もあって、実現には至りませんでした。

月に数回、無料で借りられる市の福祉会館を利用し、ボランティアさんと一緒に製作活動を続けています。

当初は 3 人ほどだったメンバーも現在では 6 名に増えました。今の悩みは、材料である毛糸や布の保管場所や出来上がった製品の保管場所、そして出店販売する場所を探すのに頭を悩ましています。

視覚障害を持っていても、特性を活かしての物づくり、大勢の方に買って頂き、喜んで頂けることを誇りに思っています。

そしてボランティアを含めて、このメンバーのチームワークの良さを何より大切にしています。

（ミニショップ・アイメイト おおすき すみこ 大瀬 純子）



（アクリルたわしの一例。左から
葉っぱ、いちご&ぶどう、バラの花）

第 19 回川崎市障害者スポーツ大会開催される

今年も市内の障害者がその技量を競う、「第 19 回川崎市障害者スポーツ大会」が市内各会場にて行われました。各大会での成績優秀者は、第 19 回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」の派遣選手として選出がなされました。皆さん真剣に競技されていました。

○第 1 部 アーチェリー大会

期 日 平成 31 年 4 月 6 日(土)
会 場 市スポーツ・文化総合センター
参加者 12 名(身体 12 名)

○第 2 部 水泳大会

期 日 平成 31 年 4 月 21 日(日)
会 場 市多摩スポーツセンター
参加者 74 名(身体 16 名・知的 58 名)

○第 3 部 フライングディスク大会

期 日 令和元年 5 月 11 日(土)
会 場 神奈川県立中原養護学校
参加者 53 名(身体 20 名・知的 29 名・精神 4 名)

○第 4 部 陸上大会

期 日 令和元年 5 月 26 日(日)
会 場 市等々力陸上競技場
参加者 163 名(身体 45 名・知的 116 名・精神 2 名)



(陸上大会開会式で挨拶する福田市長)

○第 5 部 卓球大会

期 日 令和元年 6 月 1 日(土)
会 場 市幸スポーツセンター
参加者 54 名(身体 22 名・知的 20 名・精神 12 名)

○第 6 部 ボウリング大会 ※2 月開催

期 日 令和 2 年 2 月 8 日(土)
会 場 川崎グランドボウル

第 19 回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」川崎市選手団の派遣と中止

第 19 回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」が令和元年 10 月 12 日(土)～14 日(月)茨城県内各地で開催される予定でした。この大会は毎年開催される障害者スポーツ関係では最大の国内イベントで、国民体育大会開催県において国体後に三日間の日程で開催されるものです。

全国 67 の都道府県・政令指定都市から約 5,500 名(選手 3,500 名・役員 2,000 名)が参加し、笠松運動公園陸上競技場(ひたちなか市)を中心に個人競技 6 競技・団体競技 7 競技・公開競技 6 競技が行われる筈でした。

皆さんご存知かも知れませんが、10 月 12 日に伊豆半島へ上陸し関東・東北を中心に甚大な被害をもたらした台風 19 号、川崎市でも浸水の被害や亡くなった方まで出てしまった台風ですが、この台風の影響を考慮し、全日程「中止」となってしまいました。そのてん末を少し記します。

川崎市からは過去最大規模となる総勢 57 名(選手 30 名・役員 27 名)を個人競技 5 競技に派遣する予定で、卓球競技では初めて精神障害の選手の参加が認められた大会でもありました。大会に向け選手には 7 月からの強化練習等でその技量の向上に励んでいただきました。10 月 10 日に川崎市選手団の出発式をホテルケイエスピーにて行い、現地での奮闘を誓いチャーターバスで現地へ向け出発しました。ところが出発式前日には水泳競技の中止が発表され、出発式後にボウリング競技の中止、移動のバス車中で卓球競技の中止と相次いで発表され、最後に全日程の中止の発表がなされました。特に選手団が全日程の中止を知ったのは、既にバスで茨城県入りしてからでした。急きょバスにて川崎市へ戻ってくるように変更し一路帰途につき、夜遅くに川崎駅に帰着し解散となりました。派遣選手

団の皆さんは多大な徒労を感じたことと思います。



川崎市はチャーターバスでの移動だったため急な変更にも対応できた方で、飛行機を利用しての移動であった選手団などは相当に大変だったと思います。台風の影響なので中止は致し方ないことと思いますが、事前に相当の被害が予想される規模の台風でしたから、早めに判断するなど、もう少し現地へ向かう選手団に配慮した判断・アナウンスの方法はなかったのかなと思います。

選手の皆さんは大変に残念な思いを持たれたことを感じています。来年は鹿児島での大会となります、変わらずの皆さんのご参加をお願いいたします。

（市障害者スポーツ協会事務局）

川崎市視覚障害者相互激励大会のご紹介

視覚障害者相互激励大会は、昭和 34 年に点字競技会と他の文化活動を合わせ「川崎市視力障害者相互激励大会」として始まりました。川崎市の補助事業で、市内の視覚障害者とその家族やボランティアの方々との交流と親睦を目的に、NPO 法人川崎市視覚障害者福祉協会が開催しています。

第 61 回を迎えた今年度は「ふれあいプラザかわさき」で 9 月 8 日(日)に開催、190 名が参加し、式典に続き点字競技会や市内 7 支部各々の趣向を凝らした舞台、幸運の福引等で交流を深めました。

（視障協 事業部長 酒井 栄蔵）

あやめ会 講演会のお知らせ

特定非営利活動法人川崎市精神保健福祉家族会連合会あやめ会では、12 月 19 日(木)午後 2 時より、川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）7 階にて、田宮病院の渡部^{わたべ}和成^{かずしげ}病院長を講師にお招きし、「統合失調症の大切な考え方と進め方」をテーマに、患者心理教育や家族心理教育を実践し、家族会活動の大切さを伝えてきた統合失調症治療の専門医が、当事者とうまく付き合う効果的な方法のご講演です。詳細等はあやめ会まで。

台風 19 号による被害を受けられた皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。

この度の台風では川崎市内も大きな被害に見舞われました。中原区、高津区、多摩区では建物被害は 1,500 戸余りに及びました。被害にあわれた皆様に謹んでお見舞いを申し上げますと共に、被災された皆様が一日も早くいつもの生活を取り戻されますよう心よりお祈り申し上げます。

編集後記

今年は災害の多い 1 年でした。寒さを前にして、水害に見舞われた地域の方々を、テレビで見る都度、心に痛みを抱えながらも観光地の紅葉に映える画面には釘付けとなる、遊び心に恥じ入る私です。

多忙の中、原稿を書いて戴きました皆様には心より感謝。時の過ぎ行く速さを実感する毎日ですが、この号がお手元に届く頃には、其々の方は年賀状書きに日々を追われていると思います。委員一同、一年のご愛読を感謝し新しい年もよろしくお祈り申し上げます。
（編集委員 石山 春平）

発行人 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール 3F
横浜市車椅子の会内 (頒価 100 円)